

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 12月 26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502447		
法人名	佐々木産業有限会社		
事業所名	グループホーム あげぼのあゆみホーム		
所在地	〒721-0952 広島県福山市曙町五丁目5番25号 (電話) 084-954-5704		
自己評価作成日		評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3471502447-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年12月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>庭には季節の野菜や花を植えたり、ウッドデッキを活用することで、閉鎖的にならないよう工夫しています。</p> <p>バリアフリーの平屋建てに2ユニットあり、ユニット間を自由に行き来することができるため、入居されている方の状態に合わせて新しい人間関係を構築できます。</p> <p>嫌がることは無理強いせず、様子を見ながら声掛けし、出来ることは見守り、難しいことはお手伝いすることで、より快適に安全に、自分のできる力を活用しながら生活していただけるよう支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>12月で開設14年、事業所は閑静な住宅街に位置し、欧風作りの平屋建て2ユニットの施設である。ユニット間はバリアフリーの廊下で、いつでも利用者が行き来できる開放的な作りとなっている。利用者の在所期間が長くなるにつれ身体機能等の低下、重度化が進んでいるが、職員は利用者の残存機能保持に向け無理強いすることなく、日常の支援の中で個々の利用者にあった対応をしている。利用時に寝たきり状態で入所された利用者が、日中は車椅子で座位がとれるまでに回復した事例もあり、職員がどうしたら離床して頂けるかを会議で検討を重ね、ひとつ々の課題をクリアし、根気よく対応してきたケアに対する前向きな姿勢が感じられる。防災設備の拡充として、南海地震の津波想定ををもち、行政と連携して敷地内に鉄骨の避難用高台施設（4m）が完成し、今後備蓄品、備品等の充実を考えている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	以前からある基本理念とは別に、職員全員で話し合ってきた2か条を毎日唱和して、現場に入っている。各ユニットでの定例会議で、利用者本位の介護について話し合っている。	職員は、法人理念及び職員全員で決めた事業所の基本理念を、現場に入る前に唱和している。又、各ユニットの定例会議で、利用者の立場で理念が実践されているか話し合いを行い、理念の共有と実践に努めている	前年度の目標達成計画で、理念を共有して実現するための個人目標を計画しているが、達成に至っていない。引き続き目標計画達成に向けて取り組まれることを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	利用者の重度化が進んでいるが、町内会の行事にも出来るだけ参加している。町内一斉掃除や盆踊り、文化祭等に参加させていただいている。防災訓練にも共同参加していただいている。	町内行事の一斉清掃や盆踊り、文化祭にも職員及び利用者で共に参加している。文化祭に於いては、利用者が一年間目標を立てて作った小物が多数出展され、文化祭の来訪者へプレゼントし、好評を得ている。又、事業所主催の行事も回覧板で地域に案内され、地域住民も多数参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議に町内の役員や民生委員等に出席して頂き、認知症の症状や取り巻く現状等についてご説明している。相談にいられた在宅介護の方に、利用できるサービスの説明や紹介をしたこともある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	取組みや検討している事案などを議題にあげ、頂いたご意見を職員会議で話し合い、問題の改善に繋げたり、新たな取組みを模索したりしている。	運営推進会議は、毎回テーマを決め、話し合いが行われている。市町職員・地域包括支援センター職員・町内会役員・民生委員・家族が参加し、積極的な意見交換が行われている。意見、要望に対して職員会議で話し合いの場を持ち、改善に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	年6回の運営推進会議には、毎回2名の参加を頂いている。グループホームの実情を報告、相談し、意見をいただいている。	毎回の運営委推進会議に、市町職員が参加している。その都度、相談できる協力関係が出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>拘束にあたる事例については、予測される入居者の行動についてご家族と話し合い、経過報告をしながら、代替案を模索している。</p> <p>職員会議やユニット会議を通して、勉強の機会を設けている。</p>	<p>職員は個々の利用者の生活歴、性格、日常生活動作支援で、嫌がられる支援等を把握し、利用者の生活行動による危険予知に力を入れて取り組んでいる。居室内の死角になる場所には、センサーマットを設置し、転倒予防に活用している。又、声掛けに注意し、毎月のユニット会議では注意喚起をしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>スタッフが交代で研修に参加し、その後グループホーム内で勉強会を開くようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員は書物やセミナー等で学ぶように心がけている利用者それぞれの事情に合わせ、地域包括支援センターや高齢者支援課などに相談し、あり方等を模索している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用前に丁寧に説明し、理解して頂けるようにしているが、その後も質問、相談があれば、話し合うように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議にも交代で出席してもらっているが、面会時にもしっかりと話を聴くように心がけている。</p>	<p>運営推進会議には参加家族を限定せず、毎回交替で参加して頂いている。会議及び面会時に意見交換を行い、運営に関する意見を反映できるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、職員との定例会で事業運営方針、事業実施計画、研修報告、職員意見の聴取等を実施している。	毎月の定例会、ユニット会議などで運営に関する議題をテーマに上げ、経営者、管理者、職員で話し合いを行っている。代表者・管理者は、職員からの意見、要望に対して、可能な限り反映している。又、職員からの率直な意見が聞けるよう、個人面談を検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	近時、職員の退職に伴う後任者の確保が困難にあり、早急に解決の必要がある。給与の見直しについても検討し、職員会議で話し合いを持っている。個々の職員の事情に合わせた勤務となるよう、管理者と意見交換している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の習熟度などに合わせた研修機会の確保に、配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	検討課題としている。協会主催の研修会には積極的に参加し、国等の動向を注視している。まずは、近隣の施設と防災訓練などを通して、交流を開始している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用前にアセスメントを行っているが、利用後にも、再度、今後の長期的な要望等も含めて確認を行い、傾聴の姿勢を心がけ、本人の思いを受け止めるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前に家族にグループホーム内の見学をして頂いたり、自宅に伺い、生活状況の把握、今後の不安などを聞き、必要な対応についてご協力して頂けること、グループホーム側で対応できることを話し合い、不安を取り除くよう努力している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>利用の相談を受けた際に、他の事業所のサービスについても説明し、最適なサービスについて検討できるよう支援している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>食事やティータイム、掃除や洗濯、畑の手入れ、レクリエーション等、生活を共に楽しむ姿勢を大切にすることで、笑いあったり、労わり合ったり、感謝を伝え合ったりしながら、信頼し合える関係を築くように努力している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>常時、面会・外出・外泊の受け入れを行っており、お盆やお正月などは出来るだけ家族と交流を持っていただくよう支援している。また、病院の受診にご家族の同行をお願いする等、連携をとっている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの方との面会の受け入れや、馴染みの場所に外出できるよう支援している。</p>	<p>利用者の多くは地域の方で、知人、友人の面会も時々ある。近隣のスーパーへも、希望する利用者は職員の買い物時と一緒に出掛けている。馴染みの場所へ行きたいとの要望に対して、家族と相談して外出出来るように、支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合いそうな方同士を隣の席にしたり、スタッフが間に入り、皆で会話ができる様に援助している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院から退居の場合、病院へ様子を尋ねに出向いたり、ご家族へ近況を尋ねる等している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴時や本人の居室で対一になった時、本音を聞き出す様に会話をしている。意思疎通が困難な方は、カンファレンス時にスタッフで意見を出し合ったり、ご家族の意見も伺っている。	ユニットの職員を固定することで、利用者と馴染み深く信頼関係が築きやすく、利用者の思いや意向の把握することで、個々の支援に繋げている。日常生活の中での会話、入浴時のコミュニケーションで得た情報は、個人ファイルに保管され、職員の情報共有に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用時に本人、ご家族、事業所のスタッフから、これまでの生活歴等の聴き取りをしている。日々の会話から、昔の暮らし等を聴き出すよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	各個人の介護記録に、一日を通しての言動、バイタル、食事、水分量、排泄のリズムを記入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月に一度、モニタリングを行い、全スタッフ参加の下、ユニット会議にてカンファレンスを行っている。医師からは往診時に、ご家族からは来所時に、ご意見をいただいている。</p>	<p>介護計画作成前に、家族の意見、要望を面会時等にお聴きし、経過記録をもとに3ヶ月に1回、モニタリングを実施している。職員、関係者と担当者会議で介護計画を作成している。状態の変化がみられる場合は、その都度、現状に即した介護計画の作成に努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人記録や申し送りノートに、日勤・夜勤別に記入し、全スタッフが目を通す事で、情報を共有している。記録をもとに、モニタリングを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>基本として、当グループホーム以外のサービスは利用していないが、家族の要望に応じて、柔軟に紹介している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の夏祭り、秋祭り、文化祭に、スタッフが付添い、参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用時に、ご家族の希望の上でかかりつけ医を定めている。かかりつけ医による往診を、2週間に一度受けている。急変時には、24時間の対応が可能である。</p>	<p>利用時に、かかりつけ医に関しては利用者・家族の希望を伺い、決めている。現在は、専門医以外は事業所の提携医となっている。提携医とは、24時間連絡が取れる体制が出来ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ病院の看護師と24時間の連絡が出来る体制を敷いており、利用者に異変があれば指示を仰ぎ、必要があれば受診している。週に一度、状態の確認、情報交換を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にはスタッフが付添い、情報提供を行い、入院中はご家族の不安等の相談に応じ、退院時は病院よりグループホームでの生活上の注意点の情報を頂いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>利用時にご家族へ十分説明し、同意を得ている。状態の変化があれば、その都度ご家族と相談しながら、医療機関の協力を得て、出来る限りグループホームで支援している。</p>	<p>利用時に、重度化及び終末期に際しての施設として出来る事、出来ないことについて説明を行っている。現在までに、施設内での看取りの実績はないが、今後の課題として、看取り指針の作成、看取りの体制づくりをしていきたいと考えている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>利用者の急変や事故発生時に対応する為、ユニット会議などで話し合い、全てのスタッフが行動できるようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回、防災訓練を実施し、スタッフ、利用者全員参加で行っている。訓練には、近隣、地域の方にも参加して頂いている。今秋、津波避難用の高台施設が完成したため、今後は活用方法を検討していくこととしている。</p>	<p>防災訓練は年間2回、職員、利用者、地域住民が参加し、実施している。近隣の別法人の介護事業所とも、地域行事等通じて連携ができ、今年から避難訓練はその事業所と連携で行った。南海地震の津波対策として、今年、敷地内に津波避難用の高台施設(4M)を建設し、今後その施設の有効な活用と備蓄備品の充実を考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの性格を理解、尊重し、プライバシーが保てる様に声掛けしている。	利用者の声掛け時の言葉遣いについては、会議等で職員全員に周知徹底を行っているが、生活支援の中で「行かないで」「ちょっと待ってね」など、不意に出してしまう言葉について、その都度ユニットリーダー・管理者が注意と徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションにより、本人の思いを尋ね、それが叶えられる様な支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの身体の機能や体調に応じて、その日を楽しく過ごせるように散歩を取り入れたり、レクリエーションに誘ったり、夜眠れていない方には昼寝を勧める等している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その季節に合う服装になるよう、服の入れ替えを行ったり、ご家族に連絡したりしている。 髪をとかしたり、髭も剃るよう声掛けしたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や後片付けができない方が多いが、畑で収穫した食材や季節感のある食材を使ったり、彩りの工夫をして、話題にしている。	朝食以外の副食は、配食サービスを利用しており、メニューもバランスのとれた献立となっている。季節により、敷地内の菜園で収穫した食材を利用し、季節を感じて頂けるよう工夫されている。土曜日は利用者の希望、要望に合わせた献立にして、食事を楽しんで頂けるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量、水分量を記録している。好き嫌いの激しいミキサー食の方には、補助食品を用いて、食べやすくしている。水分も、本人の希望や様子を見て、通常摂取以外にも提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>自分で出来る場合は、声掛けや誘導など見守り援助し、自力では難しい方は歯磨き、うがい、義歯のケアの支援を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄のチェックを行い、パターンを把握。随時声掛けやトイレ等への誘導をしている。全介助でも尿意のある方は訴えに応じてポータブルトイレへの誘導を行っている。</p>	<p>個々の利用者ごとに排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。日中は布パンツ（パット）で過ごす利用者も半数近くおられ、入所前にオムツ・リハビリパンツだった利用者も改善されている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便状況、水分摂取量、食事量を記録して、個々の利用者に合わせて対応を決めている。室内外を歩いたり、体操、お手伝い、レクリエーション、会話などして、体を動かしてもらうよう工夫している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>それぞれの利用者の希望の日数や時間帯に、好みの湯加減で入浴していただいている。予定日以外にも、状況や必要に応じて入浴して頂くこともある。</p>	<p>決められら日時以外でも、利用者の希望があれば対応している。湯加減や季節によって入浴剤を入れるなど工夫している。又、入浴は、職員とのコミュニケーションの場となっており、会話を楽しんだりされる利用者も多い。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>一人ひとりの状況や生活習慣に 応じて、夜間安眠できる様に、 寝具や室温調整している。日中 も状況に応じて休息をとってい る。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>個々の薬の目的や副作用、用法 、用量を理解しており、誤薬が ない様に何回も声を出して確認 し、細心の注意をはらっている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>利用者が楽しみを見つけられ、 自分の力を生かせる役割を担え る様支援している。（歌、散歩、 風船バレー、お米とぎ、掃除、 洗濯物を干したりたたんだり等）</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ つて、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。</p>	<p>個々の状態に合わせて、車椅子 や徒歩で屋外を散歩したり、花 見や盆踊り、菊花展等季節を感 じる外出も毎年行っている。</p>	<p>地域の行事に個々の利用者の身 体状態に合わせて参加している。 散歩や買物など職員が同行し、 希望があれば家族との外出（外 食）支援も行っている。ユニッ トにより、身体状態等の低下で 日常的な外出が減っている問題 意識を職員が共有し、状態に合 わせて外出の機会を増やしてい たいと考えている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>買い物に同行時、支払いやお釣 りや品物の受け取り等、利用者 の認知度の状態に合わせて支 援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご自分で伝えることができない方がほとんどなので、スタッフからご家族に利用者の近況報告を手紙等で行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>レクリエーションや日々の生活の中で製作した物、参加した行事での様子を写真に撮り、展示している。個々の体調に合わせて、エアコンや加湿器などで調節したり、畑でできた花と一緒に採り出して飾るなどしている。</p>	<p>共有空間は明るく、利用者各自の趣味の作品が掲示されている。毎朝、利用者と職員で掃除をされているため、リビング内の清掃も行き届いている。リビングのテーブルやソファ等の配置は、車いすでも心配なく通れるよう配慮され、リビングからウッドデッキに出られる開放的な環境を整えている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>移動しやすいよう、シルバーカーや車椅子、ソファやテーブルの配置に配慮している。 利用者同士が、自然とゲームをしたり、談話が生まれやすいような利用者の配置にしたり、落ち着いてテレビが見られるよう、ソファへ誘導したりしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご本人が作った作品や家族から協力して頂いた物、写真等を飾ったりしている。</p>	<p>居室内は馴染みの調度品、家族の写真等が置かれ、居心地の良い環境に配慮されている。個々の居室は利用者ごとの動線に合わせて、配置が工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>場所の表記や物の配置、記名等、生活しやすいように考慮し、工夫している。</p>		

V アウトカム項目(さくら)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあけぼのあゆみホーム

作成日 平成 29年 2月 3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員全員で理念を唱和し、徹底を図っているが、具体的に実践に繋げるようにしたい。	職員一人ひとりの個人目標を定め、理念が実践に繋がるようにしていく。	①職員の個別面談の時間の確保。 ②個人目標を決め、定期的に振り返る機会を作る。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。